

紀尾井だより

5/6 May / June 2020 [Vol.141]



紀尾井ホール開館25周年記念 室内オーケストラ・フェスティヴァル

マリオ・ブルネロ 11月に来日公演

ブルネロの「無伴奏」12曲の旅

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲

常磐津節『闇の扉』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ベートーヴェン後期をめぐる3話



紀尾井ホール

7/17
金
19:00

オーケストラ・アンサンブル金沢 with 川瀬賢太郎

細川俊夫	月夜の蓮—モーツアルトへのオマージュ
モーツアルト	ピアノ協奏曲第23番イ長調
モーツアルト	オペラ序曲選—歌劇《イドメネオ》、歌劇《劇場支配人》
	歌劇《フィガロの結婚》、歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》
	歌劇《ドン・ジョヴァンニ》 ほか



川瀬賢太郎
©Yoshinori Kurosawa

菊池洋子
©Yuji Hori

1988年に創設された我が国屈指の室内オーケストラ、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)。毎年紀尾井ホールで定期的に公演を行っているOEKが、モーツアルトのほとんどすべてのオペラの序曲を一挙上演という前代未聞のアイディアに、さらにモーツアルトのピアノ協奏曲と、細川俊夫が北ドイツ放送の委嘱でモーツアルトの生誕250年を祝うために、自身の“花”的テーマを締めて書いたピアノ協奏曲を並べるという魅力的なプログラムで、この華やかなフェスティヴァルの開幕を飾ります。指揮は常任客演指揮者の川瀬賢太郎、そしてコンチェルトの独奏には、2009年に紀尾井ホールでモーツアルトのピアノ・ソナタ全曲リサイタルを行った菊池洋子が久しぶりに登場します。



オーケストラ・アンサンブル金沢

紀尾井ホール開館25周年記念 室内オーケストラ・フェスティバル

2021
1/17
日
15:00

イル・ポモドーロ with フランチェスコ・コルティ

バッハ	チェンバロ協奏曲第1番ニ短調
ロカテッリ	チェンバロ協奏曲第3番ニ長調
バッハ	合奏協奏曲ハ短調 op.1-11
	プランデンブルク協奏曲第5番ニ長調 ほか



フランチェスコ・コルティ
©Frank Eidel

前田りり子
©MIURA Koichi

2012年に創設された若き古楽オーケストラ、イル・ポモドーロ。近年、欧州で急速に評価を上げ、話題を集めている彼らがついに初来日を果たします。ギリシャのエル・システムのアンバサダーを務めるなど活躍範囲も広く、演奏もアグレッシブな彼らが、チェンバロの魔術師フランチェスコ・コルティのリードでバッハを中心に練り上げたプログラムを探り上げます。今回の来日には、メニューインやバガニーニのコンクールで入賞した後、バッハ・コンクールおよびブリュージュ・コンクールで共に優勝を果たし、現在はコンチェルト・ケルンやB'Rockオーケストラのコンサートマスターも兼務するエフゲニー・スヴィリドフ(ヴァイオリン)、ディアパゾン・ドールやグラモフォン・アワードなどに輝くマルコ・チェッカート(チェロ)ら豪華メンバーが参加。さらにプランデンブルク協奏曲第5番には日本屈指のフラウト・トラヴェルソ奏者である前田りり子がゲストで加わるという豪華さです。



イル・ポモドーロ

©Julien Mignot

Mitsubishi Corporation *Presents*

10/7
水
19:00

オーストラリア室内管弦楽団 with リチャード・トネッティ

ベートーヴェン(トネッティ編)
チャイコフスキイ
ヤナーチェク(トネッティ編)

ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調《クロイツェル》
アンダンテ・カンタービレ～弦楽四重奏曲第1番(弦楽合奏版)
弦楽四重奏曲第1番《クロイツェル》



リチャード・トネッティ
©Andrew Quilty

1975年にオーストラリア唯一の国立室内管弦楽団として、シドニーで設立されたオーストラリア室内管弦楽団(ACO)。今回は、「ACOらしさを妥協なく発揮してほしい」という紀尾井ホールのオーダーに応え、素晴らしいアグレッシブな“ザ・クロイツェル・プログラム”を用意してくれました。ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ《クロイツェル》と、それを題材にしたトルストイの小説に触発されて書かれたヤナーチェクの弦楽四重奏曲という2つの室内楽の傑作を、ACOの音楽監督兼コンサートマスターのトネッティが、ヴァイオリン協奏曲と合奏協奏曲を組み合わせたスタイルにアレンジ。ピアノ・パートをオーケストラにすることで原曲の迫力が倍増した驚愕のサウンドに加え、チェロ以外が全員スタンディング(立奏)なのでダイナミックさがこの上なく際立ちます。



オーストラリア室内管弦楽団

©Paul Henderson

紀尾井ホールと紀尾井ホール室内管弦楽団の創立25周年を記念し、お贈りする2020年度の
ビッグ・プロジェクト ————— 国内外から注目すべき3つの室内オーケストラを招聘し、
紀尾井ホール室内管弦楽団と併せて、“室内オーケストラ・フェスティバル”(4オーケストラ
全5公演)を開催します。室内オーケストラの魅力を存分に！

25
KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

2021
1/23
土
16:00

2021
1/24
日
14:00

紀尾井ホール室内管弦楽団 with ライナー・ホーネック

スマーナ
シューベルト
ランナー
ヨハン・シュトラウス2世
ヨーゼフ・シュトラウス

交響詩《モルダウ》
交響曲第7番ロ短調《未完成》
ワルツ《モーツアルト党》
ワルツ《レモンの花咲くところ》
ワルツ《天体の音楽》ほか



ライナー・ホーネック
©ヒダキトモコ

フェスティバルの最後は紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)。首席指揮者ライナー・ホーネックの指揮で、前半はスマーナの《モルダウ》とシューベルトの《未完成》交響曲というクラシックの定番中の定番ともいべき傑作を2つ。そして後半にはホーネックのお膝元ウィーンのニューイヤー・コンサートを彷彿とさせるヨハン・シュトラウスらのワイン・ワルツやポルカを集めました。《未完成》交響曲とシュトラウスのワルツ集の組み合わせといえば、1959年にカラヤンがウィーン・フィルと初来日した際のプログラムでもあります。68年8月25日のザルツブルク音楽祭ライブ録音もあるように、このコンビは何度か同様のセットを演奏していますが、ホーネックは89年の米国ツアーでカラヤンの指揮で体験しているようで、特に思い入れのあるプログラムだそうです。新しい年の始めに、クラシックの名曲の持つ強靭な力をたっぷりと味わってください。



紀尾井ホール室内管弦楽団

©ヒダキトモコ

ブルネロの「無伴奏」



©GIANNI RIZZOTTI
マリオ・ブルネロのプロジェクト
'Bach a Mountain'

こちらから
アクセス



こちらから
プロモーション映像は

J・S・バッハが遺した弦楽器のための「無伴奏」には、ヴァイオリンのために書かれた「ソナタとパルティータ」6曲と、

チェロのために書かれた「組曲」6曲がある。

ヴァイオリニストにとっての前者と、チェリストにとっての後者は、まさしく聖典のようなものであり、けつして征服できない肥沃の大地であり、終わりがない探究の旅である。

マリオ・ブルネロは、優れたチェリストとして、「組曲」を40年以上も演奏し続けてきた。一方で、紀尾井ホールではチエリストとしてだけでなく、紀尾井ホール室内管弦楽団の指揮者としても、親しまれている。

そのブルネロに、ステージでたったひとりでバッハを演奏するときと、オーケストラを指揮するときとでは、どのように気持ちが異なるかを、たずねてみたことがある。

「バッハを演奏するのは、静寂のなかの祈りのようなもの。それに対しても指揮は、ミサをとりおこなうようなもの。人々と、音とジェスチャーだけでコミュニケーション

しながら、多くの人と生きていることを実感するもの」

——静寂のなかの祈り。

それは孤独との対話であり、またバッハとの対話でもあるのだろう。

ブルネロは「組曲」を、バッハの芸術全体の縮図まるでマッペ・モンディ（中世ヨーロッパで使われた世界地図）のようなものだと感じているという。それは簡素な音符と和声を用いて、世界の地理だけでなく、音楽の秘密までを描きだした地図なのだ。

そのブルネロが、「ソナタとパルティータ」も演奏する。これはもう一枚のマップ・モンディ、バッハという惑星のもう半分だという。

このブルネロが、6曲をあわせた12曲を、2日間で弾いてみせるという。

驚くべき冒険だ。人によっては、暴挙というかもしれない。私のような凡人には、それがどのようなものになるのか、想像もつかない大旅行である。

ただ私が信じるのは、飽くなきチャレンジャーであるブルネロは、テラ・インコグニタ（未知の土地）を発見し、聴衆を必ずそこへ連れていくってくれるだろう、ということだ。

マリオ・ブルネロ バッハ「無伴奏」

11/1
日
14:00

11/3
火祝
14:00

友の会優先発売
一般発売

文=山崎浩太郎



©Gian Maria Masarra

邦樂名曲解体新書

私のおすすめこの一曲



老若男女を一人で
語り分ける

やはり日本人のDNAの中に組み込まれているのかかもしれませんね。

三味線音楽は、「歌いもの」と「語りもの」の二つの系統に大別することができ、文字通り「歌いもの」はメロディーを重視した叙情的な楽曲、「語りもの」は物語を伝えることを重視した叙事的な楽曲です。

常磐津節は語りものの系統で、太夫（音曲の語り手のこと）は正座したままで、老若男女すべての人物を語り分けることが特徴です。義太夫節のように一つの声で語り分けるのではなくて、子どもの役には子どもの声を、女の役には女の声を模するんです。例えば金太郎母子が主人公の『山姥』。足柄山で母親と暮らしていった金太郎が源頼光の家来、三田の仕にスカウトされて都で侍大将になる話ですが、幼い金太郎、母親、頼光、幼壯老それぞの声をいわば一人芝居のようにつけて分けます。トッチンチンチントチリチンと金太郎が元気に跳ねて歩く描写もあるんですよ。台詞、語り、唄の三つが程よく調和し、リズム感とテンポの良さが常磐津節の魅力だと思います。

この面白さを若い人たちにも伝えたいと思い、地元の江戸川区で中学生を対象とする邦楽鑑賞教室を行っています。若い人たちが邦楽のことを全く知らないという危機感もありました。一九九二年から始めて、二十八年間で十四万人の中学生に聴いてもらっています。不思議なもので、子どもたちの感想を聞いてみると「初めて聞いたのに何だか懐かしい」と。

常磐津節

『関の扉』と お話／常磐津清若太夫さん

【本名題】積恋雪闇扉

【作者】初代鳥羽屋里長、二世岸沢式佐（推定）
【振付】西川扇蔵

【成立】天明四年（七八四）十一月、江戸桐座の顔見世狂言「重慶人重小町桜」の大切淨瑠璃として初演された。配役は関守・関兵衛実は大伴黒主（初代中村仲蔵）、良峯宗貞（二世市川門之助）、小町姫と傾城墨染実は小町桜の精（三世瀬川菊之丞）。

見どころ、聴かせどころに
あふれた一時間半の大曲

浮かびます。手にした盃に星の影が映り、自分がいよいよ天下を取れるのだと気分が高揚している関兵衛は「この盃中に鎮星の、きらめく影は寅の一点」と語るのですが、これは「星繰り」と言って、つまり陰陽道です。廓話にせよ星繰りにせよ、当時の人たちの間には共通認識、約束事のような基礎知識が前提にある。

「煩惱」や「慈悲」などの仏教用語もたくさん出でます。江戸時代は庶民の子どもたちも寺子屋で学んだので、当時のヨーロッパに比べて識字率が高かつたと言われていますが、そういう背景もあってから芝居が盛んになったのでしょうか。私は中学生によく「邦楽は古くに成立した音楽ですが、『古い』『伝統』ではありません。現代にも生き続けているからこそ『伝統』なんです。そうでなければ博物館の展示物になってしまってしまいます」と話しています。邦楽は音楽ですから肩の力を抜いて楽しんでいただきたいのですが、より深く楽しむには様々な本、映画、演劇などを見てベースとなる基礎知識を増やすことも大切だと思います。

文・イラスト＝尾花知美（月刊『江戸楽』編集部）
常磐津清若太夫
昭和二十年岩手県生まれ。同三十二年四世常磐津松尾太夫に入門、同四十年師範として清若太夫の名を許される。平成四年より江戸川区の区立全三十三中学校において邦楽鑑賞教室「日本のこころ」を開催。同十二年重要無形文化財常磐津節総合指定保持者認定。同二十四年東京大学文化藝術講師。同二十六年旭日双光章受章。歌舞伎公演、舞踊公演、テレビ、ラジオに出演。現在常磐津協会理事、事務局長。

意味で、木（き）、矢（や）、棒（ぼう）、臼（臼を挽く）、鉛（戸をドンと叩く）、情（鏡）、なし（手を振る）と洒落を尽くして表現する面白い場面です。

他にも見どころはたくさんありますし、関兵衛と小町姫の問答は宗教論争のようで引き込まれますし、墨染との問答は廓話なので華やかな花魁道中が目に

ベートーヴェン 後期をめぐる

3話

1
ピアノの改良発展を促した
ベートーヴェンの「ソナタ」

ピアノの改良発展を促した
ベートーヴェンの「ソナタ」

ピアノ・ソナタ史上の最高傑作とされる『ハンマークラヴィーア』ソナタ（第29番）作品106は1818年に作曲された。だが、この曲の解説では、作曲中に贈られたブロードウッド製の「6オクターヴ」のピアノについて触れられる。このピアノの音域は当時、一般的に使われていたピアノの最低音（ファ）よりも4度低い（ド）まで出せる6オクターヴ（ド～ド）であった。



2
ガリツィン侯爵と
ショパンツィヒと
ベートーヴェン

ベートーヴェンはそれを知つていてこの作品を作曲したのだ。

ベートーヴェンのほとんどの弦楽四重奏曲を初演してきたイグナツ・シュパンツィヒ率いる四重奏団は1814年大みそかのラズモフスキー伯爵邸火災で解散

ピアノ・ソナタ史上の最高傑作とされる『ハンマークラヴィーア』ソナタ（第29番）作品106は1818年に作曲された。だが、この曲の解説では、作曲中に贈られたブロードウッド製の「6オクターヴ」のピアノについて触れられる。このピアノの音域は当時、一般的に使われていたピアノの最低音（ファ）よりも4度低い（ド）まで出せる6オクターヴ（ド～ド）であった。

ピアノ・ソナタ史上の最高傑作とされる『ハンマークラヴィーア』ソナタ（第29番）作品106は1818年に作曲された。だが、この曲の解説では、作曲中に贈られたブロードウッド製の「6オクターヴ」のピアノについて触れられる。このピアノの音域は当時、一般的に使われていたピアノの最低音（ファ）よりも4度低い（ド）まで出せる6オクターヴ（ド～ド）であった。

3
作品130のファイナーレは
ならない！

トーヴェンはそれを知つていてこの作品を作曲したのだ。

され、ショパンツィヒは活躍の中心地をサント・ペテルブルクに移した。この地の音楽愛好貴族会の中心人物ニコライ・ガリツィン侯爵とはおそらく親密な交流があつたに相違ない。ガリツィン侯爵は1822年11月にウィーンのベートーヴェンに宛てて新作弦楽四重奏曲の作曲依頼を出している。『ミサ・ソレムニス』や『ディアベツィ変奏曲』そして『第9』という数年に及んでいる懸案の大作の筆を進めながらも、1823年1月にベートーヴェンはこの依頼を承諾する手紙を書いた。すると、4月になつて7年ぶりにショパンツィヒが生まれ故郷ウィーンに帰国し、弦楽四重奏団を再結成して室内楽演奏会シリーズを開いたのである。信頼する親友が戻ってきたので、『セリオーン』以来10数年ぶりにベートーヴェンは弦楽四重奏曲創作の筆をとつた。ここにはガリツィンとショパンツィヒの策略が透けて見えるよう気がする。

長調のための新しい終楽章である。第13番のオリジナルの終楽章『大フーガ』があまりにも演奏困難、内容難解であるため、ガリツィン侯爵からの依頼作品としてはふさわしくない、という友人たちのアドバイスを受け入れて簡潔な音楽として作曲したものだ。しかし、ベートーヴェンの晩年の特徴的な楽章配列に、ピアノ・ソナタ第31番にも見られるような緩徐楽章の後の終楽章をフーガにするという孤高様式と呼ばれるものがある。そうであるなら、第5楽章がアダージョの『カヴァティーナ』である弦楽四重奏曲第13番のファイナーレは『大フーガ』でなければならぬのだ。

文＝平野昭

「そうでなければならないか？（ムス・エス・ザイン？）」「そうでなければない！（エス・ムス・ザイン！）」というモットーで知られる弦楽四重奏曲第16番へ長調が最後の作品のように思われがちだが、ベートーヴェンの絶筆は1826年11月に書いた弦楽四重奏曲第13番変ロ

ベートーヴェンをめぐる紀尾井ホール公演

クリスティアン・テツラフ
ベートーヴェン・セレブレーション

I
9/25
金
19:00

公開情報
QRコード

II
9/27
日
14:00

公開情報
QRコード

友の会優先発売 5/13(水)

一般発売 5/16(土)



開館25周年記念 限定メニュー
季節のカクテルをご提供しています。

4月は桜の花びらをあしらった桜スパークリング。5月からは爽やかな新緑をイメージした抹茶スプモーニを予定しています。コンサートの前や休憩時間に季節を感じながらゆったりとした時間をお過ごしください。



速報

第33回 紀尾井友の会イベント

渡辺保氏を迎えて「邦楽、この人この至芸」

紀尾井ホールの邦楽主催公演でもおなじみの渡辺保氏(演劇評論家)をお迎えして、熱く語っていただく講演会です。「待ってました!」のお声が聞こえてきそうですね。たくさんのご参加をお待ちしております。

日程／9月23日(水) 14:00開演(予定)

場所／紀尾井小ホール

出演／渡辺保(演劇評論家)



なお、今回はホテルニューオータニ内の料亭「千羽鶴」の特別昼会席をご用意いたします。

こちらも楽しみにお待ちください。(限定28名様を予定)

詳細は、7/1発行の「紀尾井だより」142号にて掲載いたします。



紀尾井友の会のご案内



6月末までに新規入会された方に
オリジナルミニタオルをプレゼント。

ホール開館25周年記念キャンペーン

2020年度主催公演特別割引キャンペーンを実施中。
紀尾井友の会会員特典は通常、主催公演チケットが
10%割引のところ、

15% OFF のある公演を、特別に15%割引



紀尾井ホールウェブチケット [紀尾井友の会] 検索

ご利用登録後、マイページから入会手続きを簡単に行っていただけます。

ご郵送 お申込み・資料のご請求・お問合せ

紀尾井友の会事務局:

Tel.03-5276-4540 (10:00~17:00/土・日・祝休)

※詳しいご案内は紀尾井ホールホームページでもご覧いただけます。

今号からの表紙は「楽器と植物」がテーマ

紀尾井ホールから徒歩6分、四ツ谷駅の近くにある、hanadouraku様にご協力いただいています。

hanadouraku 花どうらく

麹町本店 (JR四ツ谷駅 麹町口徒歩2分)

“特別な記念日はもちろん、日常の中にも花を取り入れ、日々をより豊かに楽しんでいただきたい”それが私たちの願いです。ショップやスクール、ブライダルのプロデュース、オンラインでオーダーできるフラワーギフトなどを通じて、花のある暮らしの豊かさをお伝えしています。



営業時間(日・祝 定休)

月・水・木・金:10:00~19:00 火:10:00~18:00 土:10:00~17:00

お問合せ TEL.03-5275-3987 <https://www.hanadouraku.com/>

編集
後記



開館25周年を機に、今号から誌面をリニューアルしました。

表紙の楽器と植物はコラージュではなく本物で、すべてスタジオで撮影しています。

目にも鮮やかな季節の草花とともにフレッシュな情報を届けできればと思っています。

紀尾井友の会 特典施設のご案内

オーバカルナ 紀尾井町

(紀尾井町通り沿い、清水谷公園向かい)



お食事ご利用のお客様に限りウェルカムドリンク(メニューより選択)をサービス

お問合せ TEL.03-5276-3422

カフェ アントニオ

(JR四ツ谷駅ビル「アトレ」2階)



①ランチタイムのお食事で、グラッドオレンジジュースまたは自家製サングリア1杯サービス

②ディナータイムのお食事で、グラッドオレンジジュースまたはスパークリングワインまたは自家製サングリア1杯サービスさらに、当日のチケットをご提示で、食後にアイスクリームをサービス

お問合せ TEL.03-5379-0388

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》 A.ランゲ&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所

《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワーン ほか匿名2社

《ひびき会員》 オカムラ/きらぼし銀行/高砂熟成工場/竹中工務店/山下設計

《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/A.ランゲ&ゾーネ/NSシングフォニー・オーケストラ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設

ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/スタインウェイ・ジャパン/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テイエスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/日活アド・エイジエンシー/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱電機ビルテクノサービス/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤフー/ヤマハサウンドシステム/有帆

《あおい会員》 青木陽介/石崎智代/磯部治生/井上善雄/片山能輔/久保祐子/倉吉遼介/栗山信子/近藤貴子/佐久間庸行/佐部いく子/志立正嗣/清水 正/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謹一/高橋義徳/外山雄三/鳥居莊太/中西達郎/西村利美/原田清朗/北條哲也/牧本恵美子/松枝力/松本美恵/蓑輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実

ほか匿名20名 計105口 (2020年4月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航運/エヌエスリース/エヌテック/大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鉱業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業

日本製鉄

(2019年度、匿名一社除く)

フォトレポート 最近の公演から

1.16(木) 紀尾井 午後の音楽会 旅－人生－



1.27(月) 紀尾井ホール室内管弦楽団による アンサンブルコンサート6 音楽の冗談－少年アマデウスから壮年モーツアルトへ



名手揃いの演奏メンバー。わざと“下手”に弾くのは至難の技ですが、《音楽の冗談》では指示通りの“調子外れ”や“目立ちすぎソロパート”など「超絶技巧」が冴えわたりました。

2.14(金)・15(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第120回定期演奏会



1.17(金) 紀尾井ホール室内管弦楽団による アンサンブルコンサート5 マーラー《大地の歌》



2.8(土)・9(日) 紀尾井ホール室内管弦楽団 開館25周年記念演奏会 トレヴァー・ピノックのモーツアルト《レクイエム》



2.23(日) 長谷幸輝検校 没後百年記念演奏会



公式SNSで最新情報配信中



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>
紀尾井ホールチケットセンター TEL.03-3237-0061 10:00~18:00(日・祝休)

